

レポート

野生化カナダガンをカゴにもどそう！ ～丹沢湖のカナダガン捕獲大作戦の報告～

カナダガン捕獲大作戦実行グループ

日本野鳥の会神奈川支部 石井 隆
神奈川県立生命の星・地球博物館 加藤ゆき
(文責) かながわ野生動物サポートネットワーク 葉山久世

外来種カナダガン

シジュウカラガン大形亜種(以下、カナダガン)は北アメリカ大陸原産の水鳥で、観賞や展示目的で輸入されたものが逃げ出し、野生化しています。神奈川県山北町の丹沢湖では、1993年5月頃から観察され、95年以降繁殖を始め、現在11羽(2009年9月)が確認されています。国内では、富士五湖周辺にまとまった数が生息し(1985年以降増加、推定50～60羽)、ここからの分散個体が丹沢湖に定着したと考えられています。



写真1. 丹沢湖のカナダガン。

在来種シジュウカラガンとの交雑

カナダガンによる生態系への影響でもっとも危惧されるのは、在来種のシジュウカラガン小型亜種(以下シジュウカラガン)との交雑です。ガンカモ類は、なぜか異種間雑種を作りやすく、カナダガンでは飼育下も含めるとガンカモ類8種との間で雑種を作った事例が報告されています。

シジュウカラガンは江戸時代には関東一円にもごく普通に飛来していました。しかし、繁殖地に導入された毛皮用のキツネによって一時絶滅の危機に瀕しました。日本に渡ってくる千島列島の個体群を回復させるため、1983年にアジアでの羽数回復計画が日本雁を保護する会と仙台市八木山動物園により実行されました。日本、ロシア、アメリカの協力による、実に30年に及ぶ保護繁殖事業の努力が実り、日本へのシジュウカラガンの飛来数は増加しています。2007年には神奈川県でも1羽が確認されました。

日本に飛来するシジュウカラガンの営巣や産卵は千島列島などで行われますが、つがいの形成や繁殖に関連する行動は国内に滞在している2月下旬から始まります。遺伝的に近縁でも自然界では同所的に生息しないカナダガンを放置することは、その間、交雑のリスクも抱えることとなります。実際に交雑が起こるかどうかは、わかりませんが、ここは予防原則(悪影響が不確かだからといって後回しにせず、未然に対処すること。1992年に開催された国連環境開発会議で採択された環境と開発に関するリオ宣言の原則の一つ。)に則り、カナダガンを自然環境から除去し、シジュウカラガンとの分布重複を回避することが必要と私たちは考えました。交雑のリスクがなかったとしても、日本で野生化したカナダガンは飼い鳥が由来ですから、もう一度人の管理下に戻すことは人間が負うべき責務だと思えます。

カナダガン捕獲大作戦

私は04年頃から丹沢湖のカナダガンを何とかしたいと考えていましたが、捕獲しても引受先がなければ、安楽殺せざるを得ません。09年秋に捕獲個体を終生飼育してもらえ動物園の目処がついたことで、計画が進み始めました。

外来生物法で輸入停止や駆除等の対策が取られるのは特定外来生物のリストに入っている種だけで、カナダガンはこれには入っていません。そのため、鳥獣保護法では他の在来種の野鳥と同じく捕獲許可が必要という扱いになっています。そこで、生態系への被害防除を目的に有害鳥獣捕獲の申請をしました。環境省の指針では、外来鳥獣による被害防止の場合は積極的な有害鳥獣捕獲を図ることとなっていますが、神奈川県は、現時点では生態系への被害が明確ではないので許可できないとの判断でした。次に学術捕獲申請を行ったところ、学術捕獲で捕獲できるのは研究に必要な最低羽数なので全羽の捕獲は無理ということでした。外来種対策は予防が原則ですが、現行法で一気に捕獲対応するのは、県行政には決断が難しいようでした。県と協議した結果、推定生息羽数11羽のうち、7羽は捕獲後、動物園で飼育、飼育下での生態情報を収集する。残る4羽は個体識別のための足環(カラーリング)を装着し放鳥、野外での生態情報を収集するという2本立ての計画が認められました。今後得られる情報によっては、全羽捕獲を認められる可能性があります。

丹沢湖のカナダガンたちは既に人に良く慣れていましたが、捕獲前に4か月ほど餌付けを行ないました。その間に、カナダガンの解説や捕獲の理由を描いたチラシを作成し、山北町やビジターセンターの協力を得て地域住民への周知をしました。捕獲はハンドリング技術を持った動物園やバンダーさんの協力のもと2月に2回実施し、9羽を捕獲することができました。7羽は、横浜市立野毛山動物園と他1園のご協力により終生飼育が予定されています。2羽はカラーリングを装着し放鳥しましたが、2010年2月22日現在、残りの2羽がまだ捕獲できていません。

私たちは、今回の丹沢湖での成功をきっかけに富士五湖地域や他地域のカナダガン対策が進むことを強く期待しています。捕獲後に飼育できる羽数にはおそらく限りがあります。対応を先送りしているうちに個体数が増えれば、殺処分しなければならなくなるかもしれません。そういう意味でも早急な対応が望まれます。



写真2. 捕獲したカナダガンをケージに運ぶ。

● 足環つきカナダガンの情報提供先

カラーリングのついたカナダガンを発見された方は、下記にお知らせください。

神奈川県立生命の星・地球博物館 加藤ゆき

E-mail: katoy@nh.kanagawa-museum.jp

Fax: 0465-23-8846

